

令和5年度全国学力・学習状況調査 結果の概要及び今後の取組

丹波市立氷上中学校 R5年12月

本年4月18日(火)、中学3年生を対象に国語・数学・英語の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査が実施されました。その結果を分析しましたので、概要についてお知らせします。学校とともに学習や生活について考えていただく機会になればと思っています。

1) 調査の目的

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証しその改善を図る。
- ②調査全体の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2) 学力調査から見える成果と課題 及び 改善の方向性 調査結果〔全国との正答率比較〕

【国語】 全国平均と同程度でした

【成果】

- ・情報の扱い方に関する事項や我が国の言語文化に関する事項は全国平均を上回った。特に古典の言語に関するものは高い。資料集やタブレットを用いて古語を覚えていることが成果に現れたと考える。
- ・書くことへの抵抗感が薄れている。授業で書く取り組みを増やすことが成果に現れたと考える。

【課題】

- ・「目的や場面に応じて質問する内容を検討すること」「話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問すること」に課題がみられる。
- ・毎時間漢字テストを行っているが、漢字を正しく書くことに課題がみられる。
- ・文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することに課題がみられる。

【改善の方向性】

- ・引き続き漢字テストを毎時間実施し、少しずつ書ける漢字を増やす。
- ・読解力を高めるため、集中して読解にかかわる時間を増やす。また読解するポイントや読解の解説を丁寧に、個別対応の時間を確保する。
- ・ペアワークやグループワークで話す機会を増やし、他者の意見のキーワードをメモし、多角的に考える授業になるよう工夫する。
- ・読書が好きと回答した生徒は全国平均よりも低い。その改善に向けた読書活動の充実を図る。

【数学】 全国平均と同程度でした

【成果】

- ・A領域(数と式)の単元の基礎計算問題が84.8%と一番正答率が高かった。繰り返し、計算の反復練習を行った成果と考える。
- ・「数学が好き」と回答した生徒は全国平均よりも高い。

【課題】

- ・問題の形式に関して、選択式・短答式・記述式とも全国の平均を下回った。特に記述式の問題に関しては、全国の平均を大きく下回り、数学の事象を自分の言葉で表現することに課題がみられる。
- ・「計算の結果がいつでも3の倍数になることを説明する問題」や「グラフのどの部分が時間の差を表しているか説明する問題」、「箱ひげ図を比較して説明する問題」は、特に全国正答率との差が大きい。また、これらの問題の無回答率は全国より高い。わからない問題に対して、粘り強く取り組むことが苦手な生徒が多いと考えられる。
- ・領域に関しては、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の正答率は全国同様の分布であるが、その中では特に「数と式」に課題がみられる。

【改善の方向性】

- ・基礎計算の反復を継続的に、数学的な土台を形成する。また、過去の内容も定期的に学習し、スパイラル的な学習になるように取り組む。
- ・授業内では、「自分の考えを持つこと」の大切さを呼びかけ、それを表現する時間を定期的に作る。その中で、できるだけ「数学的な表現を使うこと」や「因果関係や根拠を明確にすること」を意識させ、数学を用いた正しい表現を身につけていく。
- ・答えの正誤だけでなく、生徒の粘り強い取り組みを評価することにより、あきらめずに取り組むことに対してしっかり価値づけをする。また、問題や課題に対して、どのように取り組めば、解決の糸口がつかめるのかを考える時間を確保し、それを交流することで、よりよい問題解決方法とその姿勢を身につける機会をつくる。

【英語】 全国平均をやや下回りました

【成果】

- ・情報を正確に聞き取ることに正答率が高かった。ALTの常時配置で、多くの英語を聞く機会に恵まれたこと等による成果と考える。また、知識技能を問う問題には比較的正確に答えている。
- ・「英語が好き」と回答した生徒は全国平均よりもかなり高い。

【課題】

- ・社会的な話題について要点を捉えたり、まとまりのある文章で書いたりすることに課題がある。
- ・自分の置かれた状況などから判断して発話するような即興性を養う必要がある。
- ・問題形式が記述式になると無回答率が上がる。わからない問題に対して、粘り強く取り組むことが苦手な生徒が多いと考えられる。

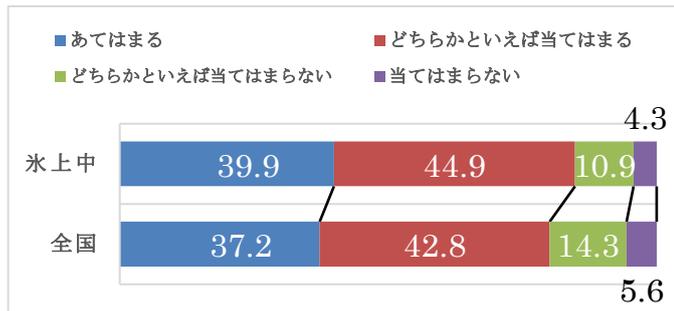
【改善の方向性】

- ・必要な情報を的確に読み取らせる機会を多く取り入れる。
- ・実生活で起こりうる場面・状況を設定し、メールのやり取りをさせたり、自分の考えを相手と交換し合ったりするような活動を行う。
- ・アウトプットの時間を設け、自分の考えをまとまりのある文章で書く機会を増やす。
- ・引き続き楽しい英語授業を目指し、英会話への抵抗感をなくせるよう対話する機会をこれまで以上に増やす。

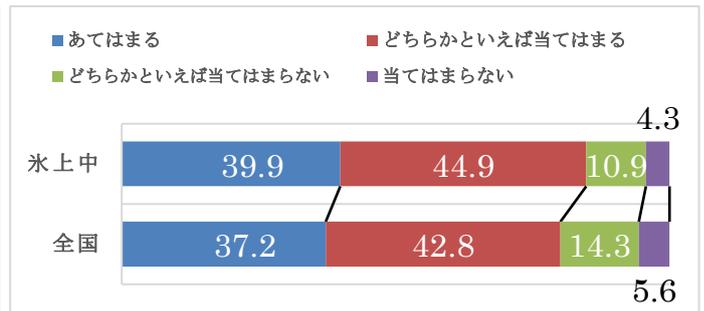
3) 生徒質問紙から見える成果と課題

自尊感情・自己有用感

①自分には、よいところがあると思いますか。



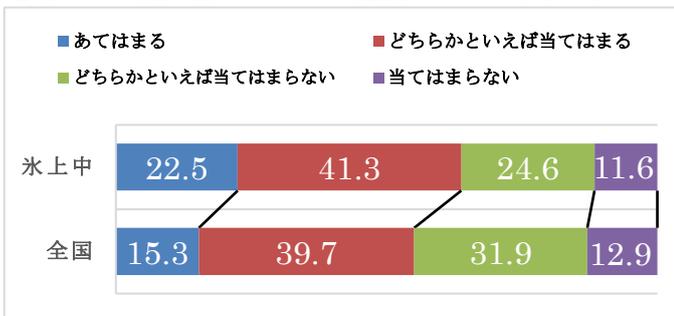
②将来の夢や目標を持っていますか。



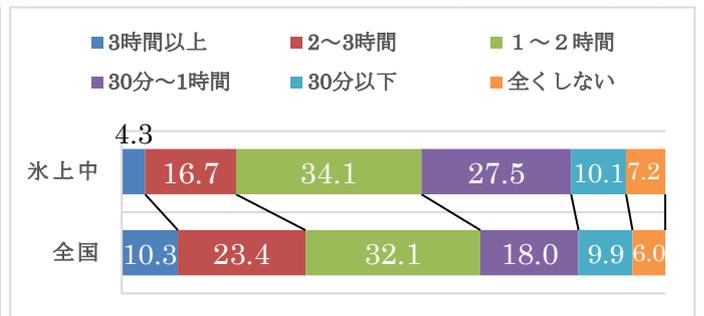
自分自身を肯定的にとらえている生徒、将来の夢や目標を持っている生徒は全国平均よりも高くなりました。これは、ご家庭をはじめ地域、学校教育(教科学習・キャリア教育・生徒会活動・部活動等)において、生徒の自主的・主体的な活動の機会を大切にしているからであると思われます。これからも主体的に活動する生徒一人ひとりを応援し、生徒の自立をしっかりと支援してまいります。

学習習慣

③家では自分で計画を立てて勉強をしていますか。



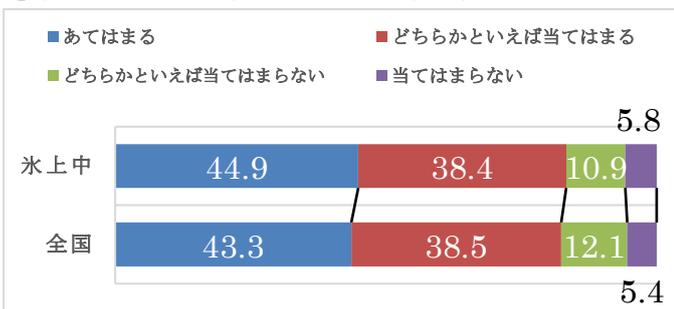
④普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。



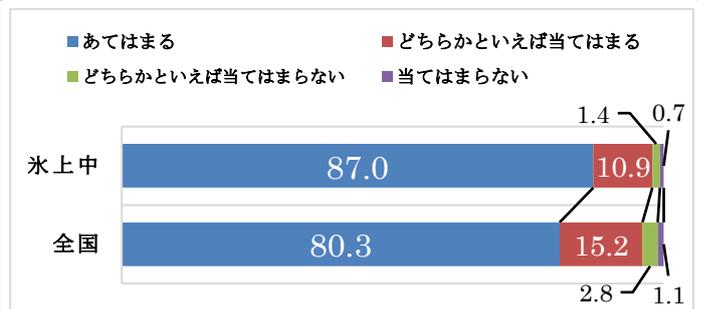
家庭では、多くの生徒が計画的に学習をしていますが、その時間には課題がみられます。学校での学習は、対話を重視した協働学習を進めていますが、さらに家庭学習につながるよう学習習慣及び個別学習対策にも取り組みます。ご家庭においても、学習環境を整えることやスマホ・ゲーム等の使用ルールの作成など、学習に向かう子どもたちの支援をお願いします。

生活習慣・規範意識・地域連携

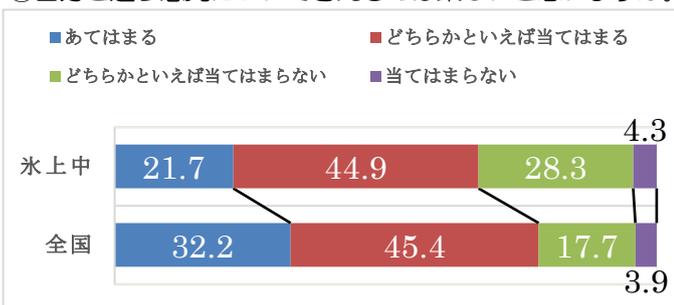
⑤学校に行くのは楽しいと思いますか。



⑥いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。



⑦自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



80%以上の生徒が学校を楽しんでいると思います。しかし、そう思えない生徒がいることにも注視し、一人でも多くの生徒が学校は楽しいと思えるようにしなければなりません。そのため、いじめはすべての生徒が絶対に許さないと考え、自分と違う意見も受け入れるなど、多様な価値を認め自他ともに大切にする学校づくりを進めてまいります。

また、グラフは載せていませんが、「地域の行事に参加している」と回答した生徒は、全国平均よりも25ポイント以上高くなりました。今後も地域に支えていただきながら、地域とともにある学校づくりを進めてまいります。